

平成 2 4 年度
総務企画局予算要求方針

【目次】

- 1 平成 2 4 年度総務企画局予算要求総括表及び経営方針・・・ 1
- 2 重点的に取り組みを行う主なもの・・・・・・・・・・・・ 4
- 3 事務事業の見直し等（主なもの）・・・・・・・・・・・・ 8

1 平成24年度総務企画局経営方針及び予算要求総括表

(1) 平成24年度総務企画局予算要求総括表

【一般会計】

平成24年度要求総額	5,148,304千円
(平成23年度予算額	4,736,268千円)
前年度比	+ 8.7%

《主な事業》

(単位：千円)

事業名	平成24年度 予算要求額 (A)	平成23年度 予算額 (B)	増減 (A - B)
環境未来都市・国際戦略総合特区推進事業	30,712	8,347	22,365
新 環境未来都市・国際戦略総合特区普及・PR事業	24,900	0	24,900
市制50周年記念事業	180,715	6,000	174,715
新 B-1 グランプ リ in 北九州事業	79,705	0	79,705
新 新修・北九州市 史編さん事業	20,000	0	20,000
日本語教室及び災害 通訳ボランティアの 育成・支援事業	8,548	8,100	448
東日本大震災関連 予算	155,788	406,058	250,270

(2) 平成 2 4 年度総務企画局経営方針

総務企画局は、「元気発進！北九州」プランの推進と、安定した財政を確立する「北九州市経営プラン」や新たな行財政改革を実施するため、総合調整機能を果たしていきます。

環境とアジアをキーワードとした「緑の成長戦略」を積極的に推進するとともに、海外の各都市との連携の強化や、多文化共生のまちづくりを目指します。

また、平成 2 5 年は市制 5 0 周年という大きな節目の年となるため、さまざまな記念事業を実施します。

さらに、多様化する行政需要に対応でき、市民に信頼される市役所を確立します。

加えて、3月11日に発生した「東日本大震災」の被災地に対する復興支援に取り組みます。

「北九州市環境未来都市」及び

「グリーンアジア国際戦略総合特区」の推進

《課題》

- ・ものづくりの技術と、環境分野の経験と実績といった本市の強みを活かし、発展著しいアジアの活力を取り込み、地域経済の活性化と雇用の創出を図る「緑の成長戦略」を効果的に推進すること。

《方針》

- ・「環境」と「アジア」をキーワードとした本市の「緑の成長戦略」の実現をめざし、「北九州市環境未来都市」及び「グリーンアジア国際戦略総合特区」構想を積極的に推進します。
- ・「北九州市環境未来都市」等について、市内外で効果的にPRするとともに、市民の自発的な行動を促進し、市民と一体となって環境未来都市等の実現を目指します。

市制 5 0 周年記念事業の実施とシティプロモーションの展開

《課題》

- ・市制 5 0 周年や「美しいまち」という北九州ブランドのコンセプトを念頭に、これまで以上に本市の強みや魅力を市内外に発信すること。

《方針》

- ・市制 5 0 周年という大きな節目を市民とともに祝い、これまでの歩みを振り返り、あらためてこのまちを愛し、誇りに思う機会とします。また、その思いや誇りによってわがまち自慢の機運を高め、まち全体で本市の強みや魅力を発信していくための起爆剤とします。

海外都市との連携強化と多文化共生の推進

《課題》

- ・海外の各都市との連携基盤を強化し、戦略的な国際連携を推進すること。
- ・NPO・ボランティアとのネットワークを活用し、外国人市民も地域の一人として、安心して生活できる環境づくりを進めること。

《方針》

- ・東アジア経済交流推進機構等を活用した経済分野の交流を拡充するとともに、海外事務所や海外関係機関と協力し、現地情報の収集やプロモーション事業等を実施します。
- ・友好協力協定に基づくベトナム・ハイフォン市との交流を推進するため、これまでの交流の成果を検証するとともに、ハイフォン市での本市のプロモーション活動を展開します。
- ・グローバル時代に対応した、新たなまちの魅力となる「多文化共生」のまちづくりを推進するため、外国人市民の意見や要望を把握しながら、日本語習得支援や多言語による情報提供などの環境整備を引き続き実施します。

効率的で効果的な行政運営

《課題》

- ・少子高齢化等による行政需要が増大する一方で税収の増加が期待できない財政的制約や地方分権の進展の中、「元気発進！北九州」プランを実現するため、市民ニーズを的確に把握し、市民の理解を得られるように施策に優先順位をつけ、より一層の「選択と集中」を進めていくこと。

《方針》

- ・今後の行財政改革の方針を定め、将来的にも活力があり、安心して暮らせる市政を継続するため、中長期的な視点も含め、行政運営全般（公共施設・組織・事業等）にわたり、総点検を行います。
- ・評価システムのさらなる推進を図り、事業等の「選択と集中」や「質の向上」を一層進めます。

東日本大震災の被災地復興に向けた支援

《課題》

- ・本市は岩手県釜石市に「北九州市・釜石デスク」を設置するなど、釜石市を中心とした復興支援に努めている。
- ・被災地では、今後復興に向けたインフラ整備等が本格化するが、甚大な被害であることから、息の長い支援が必要である。

《方針》

- ・被災地の状況や、復興の段階に応じた支援を引き続き行います。
- ・本市の特徴や強みを活かし、被災地の復興に貢献します。

2 重点的に取り組みを行う主なもの

(1) 「北九州市環境未来都市」及び「グリーンアジア国際戦略総合特区」の推進

- 1 ・ 継続 ・ 拡充

環境未来都市・国際戦略総合特区推進事業

30,712 千円

(うち拡充分 22,365 千円)

「北九州市環境未来都市」及び「グリーンアジア国際戦略総合特区」について地域協議会などの運営を行い、規制改革などに関して国との調整・協議を進めます。

- 1 ・ 新規

環境未来都市・国際戦略総合特区普及・P R 事業

24,900 千円

「北九州市環境未来都市」等について、市内外で効果的に P R するとともに、市民の自発的な行動を促進し、市民と一体となって環境未来都市等の実現を目指します。

(2) 市制 50 周年記念事業の実施とシティプロモーションの展開

- 4 ・ 継続 ・ 拡充

市制 50 周年記念事業

180,715 千円

(うち拡充分 174,715 千円)

官民の委員からなる実行委員会を組織し、にぎわいづくりや郷土愛の醸成など、本市のシティプロモーションの推進につながる主催事業の実施や記念事業全体に係る広報・P R 活動を展開します。

- 4 ・ 新規

B - 1 グランプリ i n 北九州事業

79,705 千円

平成 25 年に迎える市制 50 周年を祝うプレ事業として、都心部のにぎわいづくりと本市の魅力発信を目的に、まちおこしのイベントである『B 級ご当地グルメの全国大会』を開催します。

- 2 ・ 新規

新修・北九州市史編さん事業

20,000 千円

市制 50 周年を記念し、学識経験者や文化団体、自治会等から構成される編さん委員会を立ち上げるなど、新たな市史の編さんに着手します。

- 4 ・ 継続

(仮称) 北九州市ミュージアム構想推進事業

10,000 千円

市内各地の様々な地域資源を発掘・再発見し、これらの情報の共有や追加、補足等を行うことで、地域資源を磨き上げ、効果的な情報発信を展開します。その際、まち全体を屋根のないミュージアムに見立てます。

(3) 海外都市との連携強化と多文化共生の推進

- 3 ・ 継続・拡充

日本語教室及び災害通訳ボランティアの育成・支援事業

8,548 千円

(うち拡充分 448 千円)

市民や NPO との協働による多文化共生及び安全・安心なまちづくりを推進するため、日本語教室ボランティアの養成を引き続き実施するとともに、災害時において外国人市民に必要な情報を確実に伝達できるように災害通訳ボランティアを養成します。

- 1 ・ 新規

ハイフォン市プロモーション促進事業

4,839 千円

友好協力協定締結から 4 年目を迎えるベトナム・ハイフォン市との交流を推進するため、ハイフォン市民に向け、本市の魅力を積極的に発信するプロモーション活動を実施するとともに、これまでの水道分野や人材育成分野などの協定締結の成果を検証し、今後の交流方針について検討します。

- 3 ・ 新規

プレ 5 0 周年記念アメリカ姉妹都市交流促進事業

4,954 千円

北九州市制プレ 5 0 周年の記念事業の一環として、アメリカ・ノーフォーク市の芸術学校の高校生によるミュージカル公演「ボイス・オブ・バージニア」を開催するなど、米国姉妹都市との交流事業を実施します。

- 1 ・ 継続

東アジア(環黄海)経済交流推進機構推進事業

6,746 千円

環黄海圏の日中韓 1 0 都市で構成する「東アジア経済交流推進機構」の事務局として、会員各都市に投資や貿易に関する総合的・専門的なアドバイスを提供する「ワンストップセンター」の設置及び当センター間のネットワーク化を図り、会員 1 0 都市間のビジネス交流を促進していきます。

(4) 効率的で効果的な行政運営

- 3 ・ 継続

行財政改革の推進

18,752 千円

「北九州市経営プラン」や「北九州市外郭団体経営改革プラン」に基づき、行財政改革を推進するとともに、今後の行財政改革の方針を定めるため、平成 2 3 年度に設置した「北九州市行財政改革有識者会議」等において、引き続き検討を進めます。

- 3 ・ 継続

評価システムの活用

7,817 千円

指定管理者、公共事業、地方独立行政法人の評価や平成 2 2 年度より導入した行政評価を推進し、適切な評価を行うことにより、行政活動等の質の向上を図るなど、不断の見直しを行うとともに、市民への説明責任を果たします。

- 1 ・ 新規

全庁 G I S (統合型 G I S) 構築事業

11,273 千円

GIS は、住所情報を持ったデータを地図上に表示するなど、情報の可視化を行えるという特徴を持ったシステムで、庁内で保有する情報を集約し、業務の効率化・高度化を図るため、全庁 GIS の構築を検討します。

(5) 東日本大震災の被災地復興に向けた支援

- 1 ・ 継続

東日本大震災関連予算

155,788 千円

岩手県釜石市を中心に引き続き職員を派遣するなど、復興支援を継続します。

(6) 市民、企業、NPO等との協働した事業展開

- 4 ・ 継続・拡充

市制50周年記念事業(再掲)

180,715 千円

- 2 ・ 継続

世界遺産候補を活かしたまちづくり推進事業

10,130 千円

(うち拡充分 4,330 千円)

本市にある近代化産業遺産群のうち、旧官営八幡製鐵所の関連施設がユネスコの世界遺産暫定一覧表に登載されたことを受け、世界遺産登録に向けた保存管理計画策定等を実施するとともに、世界遺産候補を活用したまちづくりを推進します。

- 4 ・ 継続

(仮称)北九州市ミュージアム構想推進事業(再掲)

10,000 千円

- 3 ・ 継続・拡充

日本語教室及び災害通訳ボランティアの育成・支援事業(再掲)

8,548 千円

3 事務事業の見直し等（主なもの）

（1）行政評価による見直し

ブランド浸透のための広報活動の強化

これまでの実績を分析し、「美しいまち」をコンセプトとした北九州ブランドを幅広く市民に浸透させるため、さまざまな機会を捉えて広報活動を積極的に展開します。

システムの見直しによる経費の削減

電子申請システムについて、独自のシステムを利用していたが、普及されているシステムに変更することにより、機能の充実と経費を削減します。

他都市と構成する協議会等への負担金支出の削減

周辺都市と構成する協議会の事業内容を見直し、効果的な事業運営を行うことで、協議会への負担金を見直し経費を削減します。

（2）その他の見直し

節電対策による光熱水費の見直し

本市の節電対策の一環として、本庁舎の電力需要に対して、業務に支障のない蛍光灯の間引き等を継続的に行うことで、経費の削減を図ります。